

苗齢1ー1年生トドマツコンテナ苗の育生 大幅な育苗期間の短縮（2年生苗）

北振種苗有限会社 代表取締役社長 尾田 美敬
紋別地区種苗協議会 参事 遠藤 貞

1年生幼苗を緩効性肥料で育てるコンテナ苗の目的

- 育苗箱播種→除草省略
- 1年生幼苗移植(工程アップ)
- 活着率・得苗率の向上
- コンテナ苗の生産増
- 育苗期間の大幅な短縮(育苗期間4年→3年→**2年**)
- コンテナ大苗生産可(40~50cm)
- 植栽後の持続生長
- 下刈期間の短縮・省略
- 経費削減

通常のとどまつ苗育苗期間

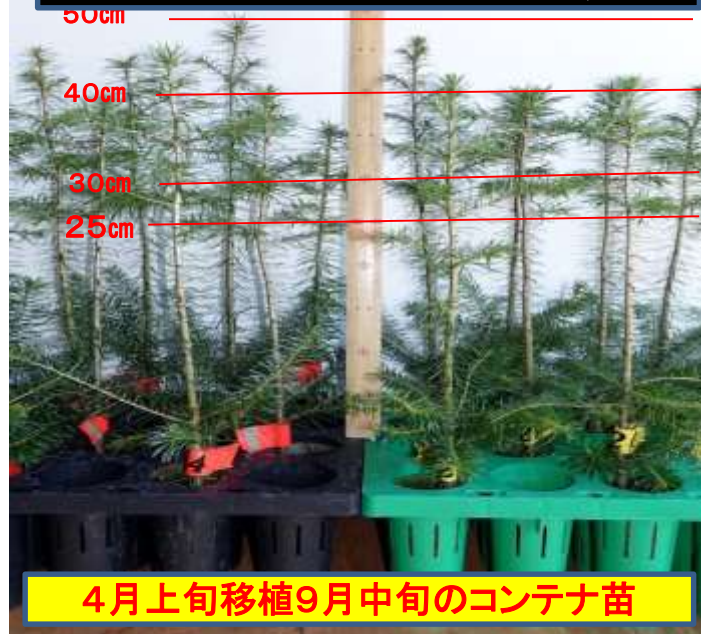
裸苗 苗齢2ー3(5年生)

コンテナ苗 苗齢2ー2(4年生)

1年生幼苗を移植したコンテナ苗は苗齢1ー2(3年生)で育苗することが出来、今回更に短縮し苗齢1ー1(2年生)で育苗することが出来ました。

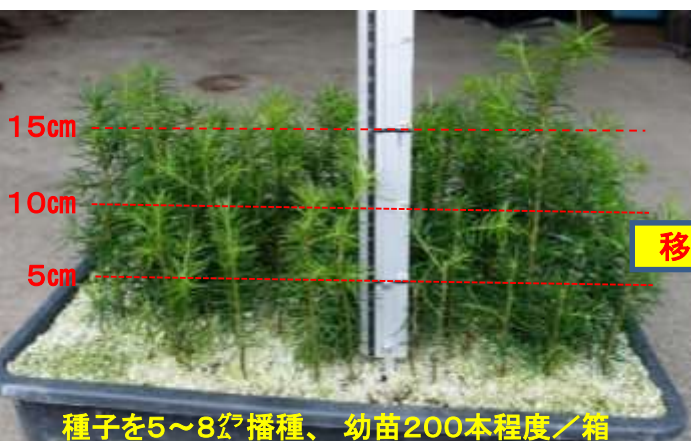
今後、とどまつコンテナ苗の供給を増やすことが出来ます。

緩効性肥料混合割合別生長



苗齢1ー1年生コンテナ苗を作る3つのポイント

- ①1年生幼苗を大きく育てるか
- ②コンテナ苗の生長に合わせた緩効性肥料の色々溶出タイプを倍地と混ぜ混合施肥を行う。更に植栽後の持続生長を図るため360日タイプ・700日タイプをも混合する。
- ③育苗管理(ハウス内の温度・湿度・苗生長に合わせた馴化育生)



種子を5~8ヶ播种、幼苗200本程度/箱



生分解性コンテナに移植(生長に合わせ移動可)